



長流川の野鳥を題材とした環境教育の実践

～地域の自然(野鳥編)出前講座の実施報告～

伊達市噴火湾文化研究所 学芸員 羽馬千恵

1.はじめに

長流川は、美笛峠近辺に源を発し、伊達市大滝区と壮瞥町を経て伊達市の長和地区の河口で噴火湾にそそぐ内浦湾最大の河川です。日本野鳥の会室蘭支部長の篠原盛雄氏によると、長流川では、これまでに約250種の野鳥が確認されており、種数においては苫小牧市のウトナイ湖に匹敵する西胆振最大の野鳥の生息地とされています(北海道新聞、2013/11/3)。

本稿では、地域にとって身近な存在の長流川に生息する野鳥を題材として行った出前講座の様子と授業の実施による児童たちの変容を報告したいと思います。

2.実施方法

伊達市立関内小学校5・6年生11名の児童を対象に平成25年10月29日に実施しました。1時間目は教室で事前学習をし、2時間目に長流川河口へ移動して野外観察を行いました。

開催時期を10月下旬としたのは、野外観察に馴染みのない児童にとって観察が容易と思われる大型で比較的動きの少ない水鳥を観察対象とするためです。カモやガンなどの水鳥は、主に冬鳥として9月下旬頃から翌春までの間、シベリアなどの北方から越冬のために日本に渡来してきます。

本講座のねらいは、児童たちに地域の自然の多様性について、長流川の野鳥を通して認識してもらうことでした。しかしながら、生物多様性といった難しい用語やマニアックな野鳥の名前の使用は極力避け、児童でも知っているスズメやカラスなどの身近な野鳥を題材に用いて、地域の生物多様性を認識してもらうよう努めました。

3.教室での事前学習

事前学習の内容は、①長流川の多様な野鳥について、②野鳥の渡りについて、③天然記念物について、④野鳥の仮剥製の観察の4部構成で行いました。また、講師が一方的に話すのではなく、発問形式の授業としました。以下に授業の様子を一部紹介したいと思います。

講師「今日は、長流川に生息する野鳥について学習します。まず、身近にいて、みんなが知っている野鳥の名前でもいいし、長流川にいるだろうな～と思う野鳥の名前を挙げてみて下さい」

——児童から、スズメ、カラス、ハト、ハクチョウ、オオワシ、ウミネコ、カモメ、カモ、ツバメの9種の回答が出る。

講師「では、みんなが挙げてくれた鳥の中で、例えば、スズメ。伊達にいるスズメは、1種類じゃないって知ってる？」

児童「え？！知らないよ」

——スズメとニュウナイスズメについてマグネットを用いて説明。

講師「じゃあ、次はカラス。カラスも伊達に何種類かいるんだけど、この2種類のカラスは、何が違うかな？」

(2種類のカラスのマグネットを黒板に貼る)

児童「あ！嘴の大きさが違う！」

——ハシブトガラスとハシボソガラスの説明をする。また、その他にもカラスがいることを説明。

講師「じゃあ、次。みんなは、ハクチョウが飛んでいるのを見たことある？」

児童「ある！（ほぼ全員）」

講師「長流川にやってくるハクチョウも実は1種類じゃないんだよ」

——オオハクチョウとコハクチョウについて説明。また、外来種コブハクチョウが身近に生息していることを補足的に説明。



写真1 野鳥についてマグネットを用いて解説

講師「では、次は、カモメ。長流川にカモメは何種類いるでしょうか？」

児童「3種類くらい？」「4種類！」

講師「正解は、主に8種類」

児童「8種類！？」

講師「でも、いつも8種類のカモメがいるわけじゃ

ないんだ」

——カモメの種類の説明に加えて、鳥の渡り（夏鳥・冬鳥）について説明し、季節によって渡去したり、渡来したりする種がいることを説明。

講師「ここまで、色々な種類がいることを説明したけど、長流川の凄いところは、他にもあります。（オオワシ、オジロワシのマグネットを貼る）。このワシたちの凄いところは何でしょう？他の鳥との大きな違いは何か、分かるかな？」

児童「大きい！」

講師「確かにワシは大きいね。でも、もっと凄いところがあるよ。ヒントは、タンチョウという鳥やマリモなど、数が少なかったり、限られた地域にしかいない生き物を国の法律で守っているよね？…天然…？」

児童「分かった！天然記念物！」

——長流川がオオワシ、オジロワシなどの天然記念物の越冬地になっていることを説明し、その生態を踏まえて、なぜ長流川に渡来するのかを説明。また、講師が作製した翼長2㍍50㌢にもなるオオワシの実物大模型を見せて、大きさを実感させる。

※（授業より一部抜粋）

以上の様子で授業の解説を終えた後、実物の標本を児童たちに見てもらい、希望者には触れてもらいました（写真2）。使用した標本の多くは、市民から当研究所に寄贈された剥製や、昨年度に実施した動物の標本を作る市民向けワークショップの実施以降に、市民から研究所に持ち込まれた野鳥の死体を仮剥製にしたもの。剥製または仮剥製の内容は、ハチクマ、ホオジロガモ、コウライキジ、エゾフクロウ、オオハム、ミヤマカケス、ハシブトガラス、アカエリヒレアシシギ、イカル、シジュウカラ、ゴジュウカラです。子どもたちには、エゾフクロウの仮剥製に触れたり、ハシブトガラスの羽を実際に持ってもらい、野鳥の羽の軽さを実感してもらいました。また、オオハム（アビ科の水鳥）の仮剥製は、首に釣り糸が絡まった状態で死亡していたのを筆者が長流川河口で拾取したもの。この個体は、仮剥製にしても釣り糸は敢えて



写真2 標本学習のようす

取らず、なぜこの鳥が死に至ったのか、観察者に分かる状態で残しました。

4.長流川河口で野外学習

車に児童を乗せ、教室から長流川河口へ向かいました。野外で野鳥を観察しやすいように、この時期に長流川河口で一般的に観察される種をあらかじめ想定し、野鳥の写真を載せたワークシートを1人1枚ずつ配布しました。

また、この時期、オオハクチョウは、日中は長流川を飛び立ち、田畠などで落ち穂を探餌しているため、まずは、長和町の田んぼでオオハクチョウ40羽を観察しました（写真3）。

その後、長流川河口へ移動し、主にカモやカモメの観察を行いました。野鳥に負荷を与えないために、



写真3 田んぼに飛来したオオハクチョウ（長和町の観察地点）

車は2台に限定しました。それでも大勢の人間が突然現れたせいか、カモが一斉に飛び立ってしまいました。しかしながら、カルガモ、マガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、ホオジロガモ、コガモ、アオサギ、オオセグロカモメ、ウミネコ、ウミウを観察することができました。

5.子どもたちの意識の変容

事前学習から野外学習まで、児童たちの反応は非常に良く、大変意欲的に授業に参加してくれました。

事前学習をしていたため、野外に出た児童たちは、カラスを見るたびに、何の種類のカラスであるか、一生懸命に見分ける様子を見せてくれました。

また、授業の実施後、自由記述形式のアンケートを実施しました。その結果、地域の自然に対する意識の変容が見られました（表1）。自分たちの周りには沢山の野鳥が暮らしていることに気づき、多様な自然環境が身近にあることを実感したという回答が多く見られました。

このことから、本講座のねらいであった地域の生物多様性について、事前授業で専門的用語で説明せずとも、ほとんどの児童が自ずと認識できたことが分かりました。

今後の課題としては、多数で観察に行くと野鳥を飛ばしてしまうことが分かったため、野外学習については児童数の多い学校では実施が難しいこと、また、児童にとって遠方にいるカモの識別は少し難しいことなどが分かりました。



写真4 野外学習のようす

6.伊達ならではの講座を

まとめでは、長流川や小学校周辺には、外来種が生息しており、野鳥などの在来生物への影響が心配されることを伝え講座を終わりとしました。

外来種問題も、地域の自然の保全も、ともに子どもたちへの教育なしには解決しない問題です。本市で発生している外来種問題、例えば、アライグマの問題

も、地域の中で子どもたちの教育に活かすことができれば、ただ駆除するだけでなく、格好の教材となり得ます。環境行政は市内の自然に関する情報を蓄積し、市民へフィードバックするところまで見据える必要があると思います。ここ数年、伊達地区だけでも、農作物被害が発生し、毎年100頭前後のアライグマが駆除されていることは、市民にもあまり知られていない事実です。

身近に豊かな自然がある伊達だからこそできる自然を活かした出前講座は、様々なものを題材にすることができるため、講座のタイトルを「地域の自然（野鳥編）」としました。今後は、「外来種編」なども考案し、様々な自然教室を実施していく必要性があるでしょう。

【謝辞】

出前授業を実施させて頂きました、伊達市立閑内小学校の校長先生および担当教職員の方に深く感謝いたします。また、日本野鳥の会室蘭支部長の篠原盛雄氏には、本教室を実施するにあたって貴重なご意見を頂きました。また、千歳科学技術大学学生支援センター学生相談室の飯塚淳市氏には、野鳥の仮剥製を、NPO法人地域自然活動センター森・水・人ネット代表の木村益巳氏には双眼鏡を借用させて頂きました。この場をお借りして、お礼とさせて頂きます。

[参考文献]

北海道新聞 2013年11月3日

アンケートの内容

- 野鳥の種類がたくさんあることがわかった。
- 伊達の野鳥は北海道の中でも多いことがわかった。
- 鳥は苦手だけどかんさつしてみてくわしくわかった。
- 色々な野鳥の名前や特ちょうが分かりました。
- かんさつに行ってもっと自分でも見てみたいと思いました。
- カモや白鳥、いつも見ているカラスやスズメにもたくさん種類があってあどろきました。
- 今度はオオワシを見てみたいと思いました。
- 野鳥にさわってフフフですごいなあと思いました。
- 今日の授業で、いろいろな野鳥の見分け方がわかった。
- 下校中などで、鳥の鳴き声でどんな野鳥か分かるようしたい。
- 長流川には約250種類の野鳥がいることと、それほど自然が豊かな場所ということがわかった。
- 長流川には250種類もいるということが一番びっくりしました。
- 冬になったら、オオワシを見たいと思います。
- 身近にいるカラス、スズメにも一つじゃなくてたくさん種類がいるんだなとわかりました。
- 本当に外に行ってカモやカモメ、ウミウなどのたくさん鳥が見れました。
- こんどまた見に行ってみたいです。
- 野鳥のことがよくわかったし、じっさいに見て身近にいる鳥とかも種類がたくさんあることがわかりました。
- 「自分で調べてみたいな…。」と思いました。
- カラスやスズメの種類がいっぱいいることを知れた。

表1 児童のアンケート

- ふだん、何も考えずにカモやカモメを見るけど、今日の授業で鳥のとくちようを知れて、これから鳥を見たら観察して鳥に関する知識を増やしていきたい。
- 長流川にいる野鳥の種類もわかったし、250種もいることがよくわかりました。本当にいる野鳥もいてみするのが大変だと思ったけど、みわかるポイントがわかつて、みわかる事ができました。白鳥のオオハクチョウとコハクチョウのみわけが大変でした。
- 長流川には250種もの野鳥がいることがびっくりした。
- オオワシなどの大きい鳥もいるのにもびっくりした。最後に大きい鳥を見れた。
- 色々な鳥を観察できた。家からすぐ行けるので、今度行ってみたいです。
- たくさんの野鳥がいることがわかりました。カモだけでも、こんなにたくさんいたのがびっくりしました。
- 白鳥のコハクチョウとオオハクチョウの見分け方も分かって、これからハクチョウを見たら、見分けてみたいと思いました。
- アライグマの足あとも人間と少しにていることが分かりました。
- 外来種は、もともと日本にいない生き物だとわかった。
- 色々な鳥の名前がわかった。
- もし鳥を見るきかいがあったら、そがんきょうで鳥の名前をしっかりかくにんしたいです。
- 鳥は、夏鳥、冬鳥がいる事がわかった。
- カラスだけでも色々な種類がいることが分かりました。
- カラスやフクロウのはくせいをさわってみて、カラスの羽はすごくかるくてフクロウはすごくもち良かったです。そして、色々な鳥の名前も分かったので楽しかった。